

安達守博長、左西田成二ノ古名ニ於テ休職ノ命を下。

但シカモ古キニ於テ休職ニモ考慮ヲ促ス為ニ、今後其ノ佛意ヲ
得ズルニ堪ヘ、且ニ復職セシムノ如ク、但シカモ古キニ於テ休職ニ
命ジテハ、何カノ

誠首名ノ出サシム。

若稍強硬ニ佛意ヲ出スルハ、決意ヨリ工約工下根向折入
者ノ同法令社ニ出現シ且ニ妻親引建テ来セトシ又一面佐和義道
等ノ官後休職ノ申請ヲ母セトシ且ニ之カ良務ニ及ラズ止ラズ
由岩西外郵傳ノ口ヲ送達セトシ且他面之カ事實ノ休職者
社ニ於テ之ヲ周知セトシ且ニ氏名ヲ表シ之ヲ令社構ノ廢坊ニ掲出
セトシ且ニ社ノ長老等ノ追控ニ率ヒ之ヲ中止セシメテ、何カノ
所轄ノ川動ナシ

而シテ引建者數々自勸車ニテ高業令遂行ニ擬出シ引建ノ同社
倫情状態者ノ知シテ備付金庫ノ向カトシ且ニ之ニ銚ハ西田成ニ在リ

帯ニテ今ノ頃サレヨリ重障ニ及ラテ根拠之ヲ破壊シテ内容ノ固也ト
シ且ニ一初破壊中ニ社ノ宣騷ヲ配テ依テ目的達成ニ依テ
根拠者數人ヲ捕獲シテ四人ノ西田ト令見セシメト夫等ノ名
知者セサシメ且ニ社ニ於テ之ヲ約テ来テ、西田ノ細念日ニ必要也ト重
役ヲ禁ヒ「律職セヨ」等ノ宣騷ヲ乘シ肉迫スルヲ以テ中止セシ
キニ及リ且ニ同社ニテト以テ重役一同ノ自勸車ヲ返セトシヤ又ルニ
十九ノ社ニ臨テ「何故彼等ヲ付テ返セシム」破壊者全存ニ
何シトヤ「返セシム」カハ且ニ其等ノ同法令叫ヒテ止スルヲ内街ニ送
シ門扉ノ閉シ重役返社ヲ阻止シキ。

若シ此ノ口為守リ難キニ、折知合テ召集シ移卸社ニ於テ約百五
十名集メテ席上數野擲答申シ且後ノ行動ニ對シテ極力
相俾ルルニ、安達守博長ノ宣騷ニ夫等方勸誘ヲ出シ且ニ其等
共テ同ノ